

第Ⅲ章 実践事例編 1 講座、研修等での実践プログラム事例

「人権に関する社会教育指導資料」を活用して、県内の様々な場で人権学習が展開されています。ここに掲載したプログラムやアクティビティは、特定の事業や対象に限定されるものではなく、様々な学習機会に活用することができます。

事例① 身の回りの人権について考えましょう

事業内容：公民館高齢者学級 学習者対象：公民館高齢者学級受講者

ワークショップの計画

コンセプト

私たちが知らず知らずのうちにもっている思い込みや偏見に気付き、いろいろなものの見方をする事や自分と違った考えを尊重する大切さに気付く。

アクティビティの設定

アイスブレーキング	○遊び感覚でジャンケンをしながら楽しい雰囲気づくりをする。また自分たちが日常生活の中で習慣化された言動をしていることに気付く。 →「後出しジャンケン」(H17『じんけん公民館ガイド』P33参考)
中心となる活動	○他者理解やコミュニケーションを促進しながら、個性を認め合い一人一人の考え方や感じ方を尊重する。→「どっちを選ぶでショー」 (H20『え！これも人権学習』P14参考) ○視聴覚資料をとおして生活の中にある思い込みや偏見に気付き、よりよい社会を築くために大切なことを考える。→「フィルムフォーラム」 (H17『じんけん公民館ガイド』P26参考)
ふりかえり	○活動をとおして身のまわりにある人権問題に対しての気付きや学びを明確にし、互いに共有することで行動化をうながす。→全体でのふりかえり

ワークショップの実践

吹きだし・・・言葉かけの例
☆・・・ポイント

	アクティビティの流れ	ファシリテーターのおさえどころ
アイスブレーキング(15分)	○本日の学習のねらいと概要を理解する。	〈ファシリテーター自己紹介〉 ☆リラックスした雰囲気をつくりましょう。
	○身近な行動の中に、自分では意識しない習慣化された言動があることに気付く。 後出しジャンケン	・私たちが生活する中で「これは自分の思い込みかな?」「これは偏見かな?」と思うことは少なくありません。今日は私たちが、気付かぬうちにもっている思い込みや偏見について見直してみましょう。
	①アクティビティの内容を理解する。	〈アクティビティの説明〉 ☆全員が理解できるよう丁寧に説明しましょう。
	②普通にジャンケンをする。	・まず、私とジャンケンをしましょう ・最初は、「普通にジャンケン」です。
	③後出しジャンケンをする。	・勝った方は・・・? 勝った方はどんな気持ちですか。 ☆高齢者は後出しのタイミングがとれないことがあるので、何度か練習しましょう。

- ・勝つジャンケン
- ・負けるジャンケン
- ・あいこのジャンケン



④アクティビティをふりかえる。

○ジャンケンでグループ分けをする。

- ・次に「後出しジャンケン」をします。
- ①最初は私に勝ってください。
- ②次は私に負けてください。
- ③最後はあいこになるように出しましょう。

- ①みなさん勝つことができましたね。今どんな気持ちですか。
- ②私が勝てるように、みなさんは負けてくれましたが…。勝つときと比べてどうでしょう。易しかったですか。難しかったですか。それはどうしてでしょう。
- ③あいこはどうでしょう。相手に合わせるのは難しいことではありませんね。簡単な遊びの中に、私たちが日頃当たり前と知っていることを見直すヒントがありますね。

中心となる活動1 (30分)

○様々なものの見方に気付く。

どっちを選ぶでショー

〈P25 ワークシート使用〉

- ①アクティビティの内容を理解する。
- ②自分の価値観でA・Bどちらかを決定する。
- ③グループ内で項目を決定し、それぞれの考えを説明しあう。

- ・相手の立場で行動すること、相手に合わせることも大切ですが…。次はグループのメンバーと気が合うかどうか確かめてみましょう。

- ・ワークシートの各質問を読んで、自分としてあてはまる、または、どちらかというに近い答えをA・Bから選んでください。

- ・グループの中でどれか項目を決定して、それについてどちらを選んだか、選んだ理由を一人ずつ説明しましょう。

☆グループで項目を決めかねているところは、話しやすいものを指示するとよいでしょう。

④アクティビティのふりかえりをする。

○各グループをまわりながら、数人ずつ感想を述べてもらう。

- ・例えば、目玉焼きにかけるのは「しょうゆ派」「ソース派」両方ありましたね。
- ・他の人の話を聞いて何か感じたことはありますか。
- ・他の人の考えで、興味をもったものはありますか。
- ・同じ理由で好きという人はいましたか。逆に同じ立場でも理由が違う人はいましたか。
- ・活動して、何か気付いたことはありますか。

【休憩】

○人権課題を意識して啓発資料を視聴する。

フィルムフォーラム

・「親愛なる、あなたへ」
企画:財)兵庫県人権啓発協会(2009)

- ①アクティビティの内容を理解する。

- ・人の考え方や価値観は全く同じものはありませんでしたね。私たちの生活でもそれは言えます。最後に映像資料「親愛なる、あなたへ」を見て、私たちの生活を考えてみましょう。

☆本日のねらいと映像との関連をおおまかにおさえます。

活動2 (40分)

- ②視聴する視点を明らかにする。
- ③映像を視聴する。

- ・次の点に注目してVTRを見てください。
- ①ドラマに描かれている人権問題は？
- ②小野寺さんはなぜ地域のことに気が向かなかったのでしょうか。
- ③まちの灯のおかみの言葉「決めつけ」とは。
- ④妻、陽子さんの残した「恩送り」とは…。

ふりかえり (15分)

個人のふりかえり

- ①ワークシートに個人の気づき学びやを書く。

- ・ワークシートに映像を見て気付いたことや感じたこと、今日の講座で学んだことを記入してください。

全体での共有

- ②個人の学びや気づきを全体に発表し、共有する。

☆学習者がワークショップをとおしての気づきや学びが明確にできるようにうながしましょう。



- ・小野寺さんや地域の人には、どんな決めつけや偏見がありましたか。
- ・偏見や思い込みをなくしていくには、どんなことが必要だと思いますか。
- ・「恩送り」についてどう感じましたか。
- ・今日の活動でどんなことを学びましたか。

- ・人と人が理解し合うことが大切です。
- ・「恩送り」とは、自分がうけた優しさや恩を直接返すのではなく、知らない人や次の世代に伝えること…。素敵ですね。優しさを多くの人に伝えていくのが人間なんですね。

ワークショップの評価

学習者のふりかえりから

ー全体をとおしてー

- ・自分も気付かないうちに思い込みや偏った考えをもっていることがわかりました。
- ・人権を尊重することは、互いの立場、価値観や考えの違いを理解し合うことから始まると思いました。



ーアクティビティについてー

- ・「どっちを選ぶでショー」では、同じものが好きでも、人によって理由が違うことがわかりました。
- ・人権啓発ビデオを見て、登場人物のおかれてる立場や考えと自分の身の回りのことを重ねて考えることができました。

ファシリテーターのふりかえり

ー効果ー

- ・食べ物やお気に入りの物など、身の回りのことを題材にしたことで気軽に話合いを持つことができました。また価値観や考え方の違いについての気づきが得られました。

ー課題ー

- ・他のアクティビティとの関連がより明確になるよう、人権啓発ビデオを視聴する視点を検討し、ふりかえりの言葉かけを工夫すればさらに多くの気づきが期待できたいと思います。



どっちを選ぶでショー

ワークシート

1 次のNo.①～⑥について、自分にあてはまるのはA・Bどちらでしょう。どちらかを選んで○で囲んでください。

- ①好きな季節は (A冬 B夏)
- ②目玉焼きにかけるのは (Aしょうゆ Bソース)
- ③家電を買う際、値引き交渉を (Aする Bしない)
- ④旅行に行くなら (A国内 B海外)
- ⑤朝の占いを (A信じる B信じない)
- ⑥生まれ変わるなら (A男性 B女性)



2 グループで、No.①～⑥の中から1つの項目を選んで、それについてコメントを出し合いましょう。

選んだ項目 (No.)

私が選んだのは (A · B)

理由は . . .

グループのメンバーの考え

A

B

3 このアクティビティで感じたこと、気付いたことは？

事例② コミュニケーション力を高めるために

事業内容：人権教育指導者研修

学習者対象：学校教育・社会教育人権教育担当者

ワークショップの計画

コンセプト

学習者同士が話しやすい雰囲気をつくる活動や話し合いをとおして、人間関係を築く上でのコミュニケーションの大切さやよさを理解し、よりよいコミュニケーションについて考える。

アクティビティの設定

アイスブレイキング	○学習者同士の連帯感を高めながら、言葉以外のコミュニケーションの重要性に気付く→「同じ色に集まれ」をアレンジ（H13『人権学習プログラム集』P34参考）
中心となる活動	○互いの価値観に違いがあることに気付くとともに、よりよいコミュニケーションに必要なことを考える。→「ダイヤモンドランキング」（H13『人権学習プログラム集』P26参考）
ふりかえり	○活動をとおしてコミュニケーションについての気付きや学びを明確にし、互いに共有することで、学びを深める。→個人のふりかえり・全体の共有

ワークショップの実践

吹きだし・・・言葉かけの例
☆・・・ポイント

	アクティビティの流れ	ファシリテーターのおさえどころ
アイスブレイキング（15分）	○本日の学習のねらいと概要を理解する。	〈ファシリテーター自己紹介〉 ☆人権の視点でのコミュニケーションの大切さに目を向け、コミュニケーションについての体験などを話し、ファシリテーター自身が「自己開示」をします。
	○言葉以外のコミュニケーションの大切さに気付く。 同じマーク集まれ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段私たちのコミュニケーションは、ほとんど会話で行いますが、ここでは会話以外のコミュニケーションを考えてみましょう。
	①アクティビティの内容を理解する。	
	②学習者の背中にシールをはる。	〈アクティビティの説明〉 ☆抵抗がある方への配慮も忘れずにしましょう。
③アクティビティを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声を出さずに見えない自分のマークと同じ仲間を見つけグループを作りましょう。 ・ どれくらいの時間でできるでしょうか。 	
④アクティビティをふりかえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな方法で仲間を見つけましたか。 ・ 仲間になれた今、どんな気持ちですか。 ・ 相手から伝わってきたものはありますか。 ・ 私たちは、言葉によるコミュニケーションに頼りがちですが、言葉以外のコミュニケーションスキルを高めることも大切です。 	

○マークについて理解する。



(H21『今すぐ使える人権学習プログラム』P13参考)

- ・生活の中にこのようなマークがたくさんあります。今までどこかで見たことはありますか。
- ・何か気付いたことはありますか。

・単純なマークではなくバリアフリーマークを利用することにより、日常生活の「人権に対する配慮」に気付く機会にしました。

○コミュニケーションスキルを理解し、様々な視点でコミュニケーションを考える。

ダイヤモンドランキング

〈P29 ワークシート使用〉

①アクティビティの内容を理解する。

〈 アクティビティの説明 〉

- ・相互理解を深めるためにコミュニケーションを図る上で最も大切なことは何なのか、自分の考えを整理してみましょう。

②コミュニケーションスキルの順位付けをする。

- ・グループでお互いの考えを共有します。
- ・なぜそのようにしたか、理由をメンバーに説明しましょう。
- ・意見を交換し合って、グループとしての考えをまとめましょう。

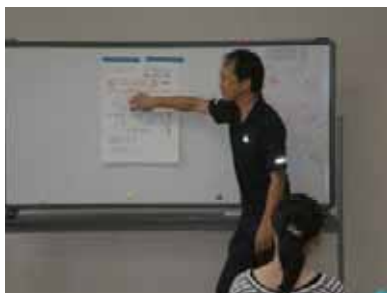
③個人の考えをもとに、グループ内で話し合って順位付けをする。



☆個々の考えの相違や共通性に目を向け、話し合いをとおしてコミュニケーションのよさを体験できるようにしましょう。

④グループで話し合った結果を発表する。

- ・グループごとに話し合った結果を発表しましょう。なぜそのようにしたのか、話し合いの内容やグループの考えを他のグループの人にも伝えましょう。



- ・こんな少人数でも、多様な考えがあるようです。グループの中で自分と同じ考えで順位付けをした人はいましたか。逆に全く違う考えはありましたか。
- ・他の人の意見を聞いて、自分の考えが変わった人はいますか。どう変わりましたか。
- ・話し合いに自分の考えは反映されましたか。
- ・話し合いの中で印象に残っていることは、ありますか。
- ・このアクティビティで気付いたことはありますか。

⑤アクティビティのふりかえりをする。

☆個人の考えや価値観は、全く同じものはないこと、それをコミュニケーションによって合意形成を図った過程をふりかえります。

○グループごとに、数人ずつ感想を述べる。

中心となる活動 (50分)

ふりかえり (15分)

個人のふりかえり

- ①ワークシートに個人の学びや気づきを書く。

全体での共有

- ②個人の学びや気づきを全体に発表し、共有する。



☆学習者がワークショップをとおしての気づきや学びを明確にできるよう、うながします。

- ・ワークシートを使って、本日のワークショップをふりかえりましょう。

- ・今日のワークショップで、コミュニケーションについてどんなことを感じましたか。
- ・今日のワークショップで、新たな発見がありましたか。それは、どんなことですか。
- ・今日の経験をこれからの生活（コミュニケーション）のどのような場面に生かせるでしょうか。

- ・話し合いでもそうであったように、発表していただいたみなさんの気づきや学びも様々ですね。それを聞いたことで、さらに新たな視点で気づきがあったと思います。
- ・お互いの学びの成果に拍手を送りましょう。

ワークショップの評価

学習者のふりかえりから

ー全体を通してー

- ・初めてお会いした方々とも、コミュニケーションをとることによって打ち解けました。
- ・話し合いやグループワークで、いろいろなものの見方があることに気づきました。
- ・コミュニケーションをとろうとする気持ちが大切だったんですね。
- ・職場でのコミュニケーションを積極的にしていきたいと思いました。



ーアクティビティについてー

- ・言葉でなくても、表情やしぐさなどで相手に気持ちが伝わることを知りました。
- ・ダイヤモンドランキングでは、今まで考えたこともなかった視点でコミュニケーションを考えられました。
- ・いろいろな意見がありましたが、コミュニケーションスキルには、「これが正しい」という答え（順位）はないという結論をグループの話し合いで導き出したことがうれしかったです。

ファシリテーターのふりかえり

ー効果ー

- ・学習者が積極的にワークショップに参加してくれ、楽しく和やかな雰囲気でもアクティビティを進めることができました。コミュニケーションのねらいやよさを感じてもらえました。

ー課題ー

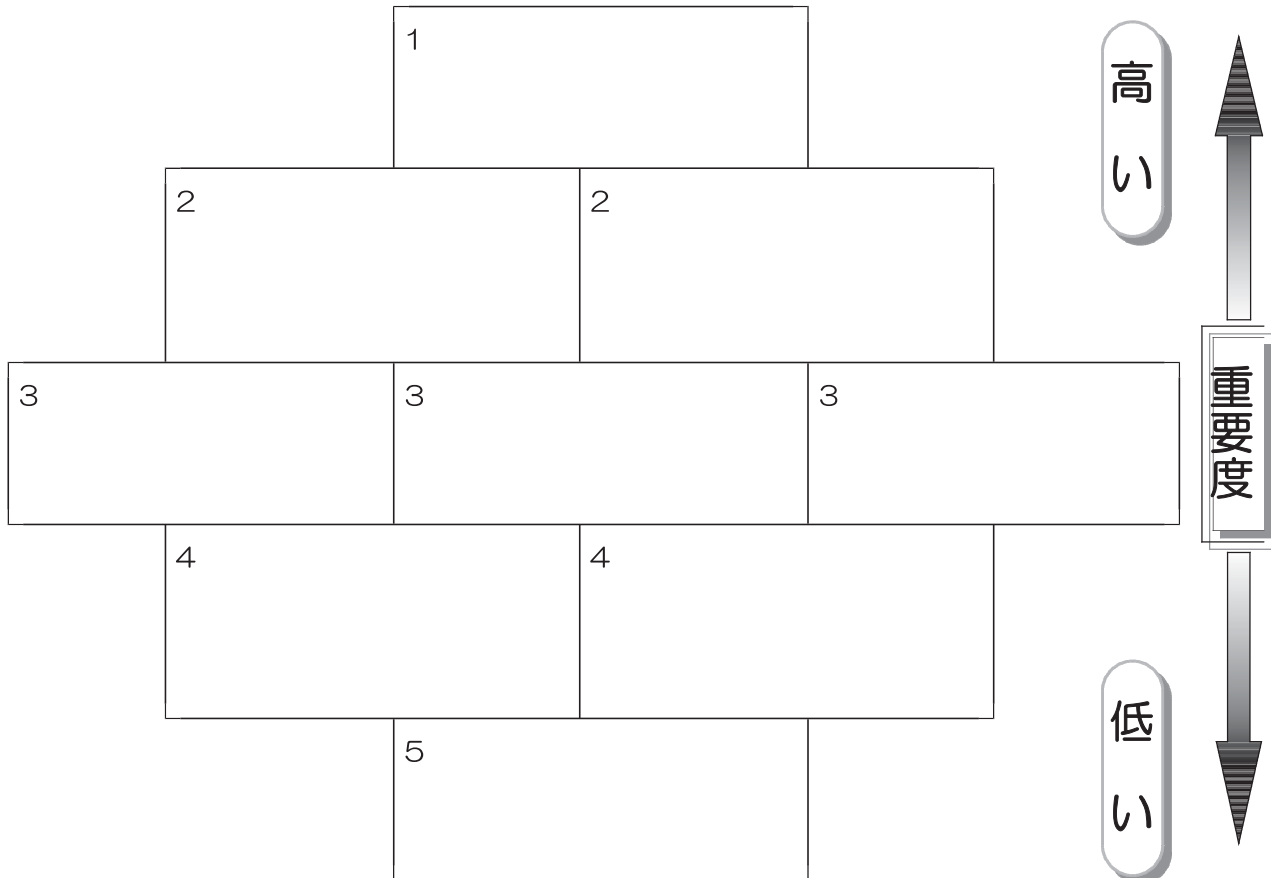
- ・ダイヤモンドランキングの9つの項目で、内容がやや曖昧なものもありました。学習者が判断しやすい内容にしたいと思います。



ダイヤモンド・ランキング

ワークシート

下の9つのコミュニケーションスキルを、あなたが重要である
と考える順番に並べてみましょう。



〈コミュニケーションスキル〉

A：言葉・文章表現 正しい言葉遣いや豊かな語彙力	B：語調 言葉の強弱やイントネーションなど	C：速さ 理解しやすい話すスピード
D：傾聞 相手の話に静かに耳を傾けて、聞くことに徹すること	E：表情 話を伝えたり聞いたりするときの表情	F：視線 話を聞いたり、話したりするときの視線
G：動作 身振りや手振り、うなずきや相づちなど	H：要望 的確な質問をし、話し手から話を引き出すこと	I：雰囲気づくり 互いに話しやすい相手との位置や距離

事例③ 見方を変えると素敵な私

事業内容 : 公民館高齢者講座、PTA保護者学級など
 学習者対象 : 高齢者、小中学校PTA会員、教職員など

ワークショップの計画

コンセプト

自分自身を見つめ直すことによって、かけがえのない自分に気付くことができる。また、否定的な自分を肯定的に見ることをとおして、自尊感情を高める。

アクティビティの設定

アイス ブレイキング	○自分に関する数字を基にビンゴゲームをすることによって、学習者同士のコミュニケーションを深めながら他者理解をうながす。 →「こだわりのナンバー」(H13『人権学習プログラム集』P4参考)
中心となる活動	○否定的な自分を肯定的に見ることをとおして、自尊感情(セルフエスティーム)を高める。→「見方を変えれば」(H13『人権学習プログラム集』P6参考)
ふりかえり	○活動をとおして気付いたことやこれから大切にしたいこと、他者への接し方などを互いに共有することで、学びを深める。→個人のふりかえり・全体での共有

ワークショップの実践

吹きだし・・・言葉かけの例
 ☆・・・ポイント

	アクティビティの流れ	ファシリテーターのおさえどころ
アイス ブレイ キング (20分)	<p>○本日の学習のねらいと概要を理解する。</p> <p>○自分自身を大切にすることは、人権を大切にすることにつながることを理解する。</p> <p>こだわりのナンバー</p> <p>①自分自身を表す数字(0~99まで)を9個のマスの中に書き込む。</p> <p>②自由に動き回り、簡単な自己紹介の後、同じ数字があったら、その数字の表す意味を伝え合い、丸で囲む。</p> <p>③次々に相手を変えて数字を探していき、マスの縦・横・斜めのいずれか1列がそろったら、席に戻る。</p>	<p>〈ファシリテーター自己紹介〉</p> <p>☆自分自身を大切にすることが、人権を理解することや他者の人権を大切にすることにつながることをはじめにおさえましょう。</p> <p>〈アクティビティの説明〉</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと変わった自己紹介をします。 ・数字を使って自分を表現しましょう。 ・誕生年月日、年齢、家族の人数、好きな数字などをマスの中に書き込みます。9つのマスには全て違う数字を入れてください。 </div> <div style="border: 2px solid yellow; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・今までにあまり話したことのない人と積極的に話してみよう。 ・数字の意味を上手に伝えてください。 ・マスの縦・横・斜めのいずれか1列がそろったら席に戻ってください。 ・たくさんの数字の中で、自分と同じ数字を選んだ人はいるでしょうか。 </div>

④アクティビティを行って気付いたことを発表し合う。

- ・ゲームをとおして、コミュニケーションについて気付いたことを発表してもらいます。
- ・ゲームの中で何か不安な点はありましたか。
- ・同じ数字の方を見つけたとき、どんな気持ちでしたか。
- ・自分の思いは相手に伝わりましたか。
- ・相手の考えを聞いてどう感じましたか。

・この後、グループ分けをして、こだわりのナンバーを基に他者紹介のアクティビティを行うことができます。

○自分の欠点も含めて、自己を肯定的にとらえる。

見方を変えれば

①自分のマイナスだと思うことを書き出す。

- ・今度は違った角度で自分を見つめてみましょう。誰にも欠点がありますが…。
- ・自分を表す否定的な単語を思いっただけ書き出しましょう。

☆普段、学習者が「変わりたい」と感じている点を出せるようにながします。

〈アクティビティの説明〉

②マイナスをプラスの表現に変えるとどうなるか考える。

- ・書いた言葉を肯定的な言葉に直すとどうなりますか？ 一つずつ直してみましょう。

☆思いつかない人がいたら必要に応じてグループ内で教え合うことが大切です。

③書いた内容をグループ内で発表し合う。

- ・どのようなことを書いたか、グループ内の何人かで発表し合いましょう。
- ・もし別のアイデアがあったら、アドバイスをしてください。

④長所と短所のとらえ方について全体で考える。

- ・発表し合ったことについて、聞かせていただけますか。
- ・それを聞いてどう思いましたか。(相手に)
- ・今の意見に対してどのように思いますか、他の考えはありませんか。(全体に)
- ・ポジティブな見方をすれば、短所は長所に変えられると言えますね。
- ・今日の気づきを自分だけでなく他の人にも当てはめてみるとどうですか。

☆他者との関係にも視点を向けましょう。

別展開

- ①自分自身のマイナスだと思うことを用紙に書き出します。
- ②書かれた用紙を回収し混ぜた後、配り直します。
- ③他者についての否定的な表現を肯定的な表現に言い換えます。
- ④再び用紙を回収し、どのようなことが書かれたかファシリテーターが読み上げます。
- ⑤長所と短所のとらえ方について学習者相互で考えます。

中心となる活動 (50分)



ふりかえり (10分)

ふりかえり

- ①ワークシートに個人の学びや気づきを書く。
- ②各自がワークシートに書いたことを発表し合う。



・ワークシートを使って、本日のワークショップをふりかえりましょう。

・ワークショップの中で、マイナスに感じていることを言い換えることによって、どんなことを感じましたか。
 ・今日のワークショップで、新たな発見はありましたか。それは、どんなことですか。
 ・今日の経験は今後他の人と接するときに、どのように生かせるでしょうか。

・今日の学びを、みなさんが今後の生活の中で生かし、よりよい人間関係を築いていけることを期待しています。

ワークショップの評価

学習者のふりかえりから

ー全体をとおしてー

- ・人権を大切にすることは、まず自分自身を大切にすることから始めるとよいと思いました。
- ・他の人も自分と同じように大切にすると人権が守られると思いました。
- ・誰もが大切な存在なんですね。



ーアクティビティについてー

- ・物事の見方にはいろいろあることがわかりました。
- ・短所も視点を変えてポジティブに考えることができることがわかりました。
- ・自尊心という言葉は、難しそうだったが、自分を大切にすることだということがわかりました。

ファシリテーターのふりかえり

ー効果ー

- ・アイスブレイキングでは、積極的に意見交換をしていました。
- ・自分自身でマイナスであると思っていたことも言い換えることでプラスになることに気付いてもらえました。
- ・他の人と接するときに、見方（言い換えの視点）を変えることも大切だという意見が多数出ました。
- ・自他共に大切にすることが、人権を大切にすることにつながるという意識が高められました。

ー課題ー

- ・マイナスの点などは、あまり出したいくないと考える人もいるので、人によって出す数に差がありました。グループでの意見交換を上手に行ったり、ファシリテーターが助言したりすることも必要かもしれません。



「青少年教育」・「高齢者学級」・「家庭教育学級」：河内地区

アクティビティ（中心となる活動）

「どのように見える？」
（H17『じんけん公民館ガイド』P39参考）

だからこのアクティビティ

だまし絵を基に、いろいろな見方ができることを知り、柔軟な見方や思考の大切さに気付くことができます。思い込みや、習慣を見直すことが人権に関する気付きの第一歩であるということに結び付けています。

アドバイス・マイアレンジ

ナインドットなども行うことがあります。9つの点を5本の直線で一筆書きするのは誰でもできます。さて4本の直線では？3本の直線では？思い込みを捨てないとできません。



「高齢者学級」・「企業における人権教育」：河内地区

アクティビティ（中心となる活動）

「ちびまる子ちゃん」で
（H20『えっ！これも人権学習』P22参考）
「フィルムフォーラム」
（H17『じんけん公民館ガイド』P26参考）

だからこのアクティビティ

研修の課題やテーマに迫る映画やVTRを視聴し、視覚に訴えることで学習者に共感的な理解を得ることができます。机上での学習よりも、興味関心が高まり、意欲的に学習できます。また、準備も比較的容易です。

アドバイス・マイアレンジ

私は最近、「えっ！これも人権～4コマ劇場より～」企画:財和歌山県人権啓発センター(2008)を使っています。映像が子どもの巻、暮らしの巻、会社の巻の3部構成で成り立っています。アニメーションと実写映像が組み合わせられ、様々な人権上の気付きをうながしてくれます。対象となる学習者の状況でどの映像を使うか決めていきます。場面ごとに映像を止めながら学習者と考えていきます。何度か繰り返して試写し、どのタイミングで止めるといいかチェックしました。



「女性学級」：上都賀地区

アクティビティ（中心となる活動）

「いいところ応援」
(H21『今すぐ使える人権学習プログラム』P36参考)

だからこのアクティビティ

寄せ植えに限らず、作品を作る講座はとても人気があり、多くの方が毎回参加申し込みをされています。参加者の仕事が終わる時間に合わせて講座を開催しているので、ひと仕事を終えて『ほっ』とした気分で作品を作ります。一人一人が植え込みの技術を身に付けながら自由に作品を作り、互いの作品のよいところを発表し合うことで、それぞれの自尊感情が高められるとともに、学習者同士のよりよい人間関係づくりにもつながります。「ほめられると、やっぱり嬉しいわよね。」「人の作品のよいところを見つけて伝えるのも気持ちがいいものね。」といった感想が聞かれました。



女性の集い：「いいところ応援」

アドバイス・マイアレンジ

作品をとおして互いのよさを認め合うことは、共に生きる社会づくりにつながると思います。寄せ植えや女性対象の講座に限らず、他の講座でも活用できます。和やかな雰囲気づくりとしての活用もおすすめです。

「高齢者学級」：上都賀地区

アクティビティ（中心となる活動）

「人権ポスターで考えてみましょう」
(H20『えっ！これも人権学習』P30参考)

だからこのアクティビティ

何気ないポスターから、見えてくるものがたくさんあります。このポスターからは「自分さえよければいいというものではないわよね。」「気付かないうちに私もやっているかも。」という素直な意見がたくさん出てきます。たくさんの方の気づきや、ふりかえりができるのでおすすめです。

アドバイス・マイアレンジ

自分の人権だけでなく、他人の人権も大切であることに気付くことができます。1コマごとに「せりふ」を入れたり、「キャッチコピーをつけよう」としてアレンジしたりして活用もできます。人権啓発ポスターなどの資料は、財団法人人権啓発推進センターや法務省人権擁護局のホームページから検索できます。



生きがいの集い：
「人権ポスターで考えてみましょう」

「女性団体研修会」：芳賀地区

アクティビティ（中心となる活動）

「どっちがお得でショー」
(H21『今すぐ使える人権学習プログラム』P21参考)

だからこのアクティビティ

町の女性団体に所属する方々は、それ以外にも地域や各団体で指導的な立場として活躍している方々です。女性自身の人権を確認するとともに、家族の人権について、それぞれの立場に立って考えてもらうことを目的にこのアクティビティを選びました。お孫さんのいる方も多く、「普段は、子ども夫婦の気持ちを考えないで言葉をかけていましたが、その役になってみると、子ども夫婦にも言い分があり、守られなければならない人権があることに気付きました。」といった感想が聞かれました。

アドバイス・マイアレンジ

参加者に応じて、準備する役割を変えるとより効果的な活動になると思います。このアクティビティの後には、学習者が地域における指導的立場にあることを考慮して、同和問題に視点を当てた「結婚の条件」(H19『元気が出る人権学習』P26参考)を実施しました。



女性団体研修：「どっちがお得でショー」

「高等学校における人権学習会」：芳賀地区

アクティビティ（中心となる活動）

「リングダウンゲーム」
(H18『じんけんワークショップガイド』P41参考)

だからこのアクティビティ

高校生にとって、これまで経験した人権学習の多くは、ビデオを見た感想についての話合いや歴史的な背景などについて授業で学ぶことだけでした。ワークショップ形式での人権学習に初めて取り組む生徒にとって、「全ての人を一人の人間として尊重すること」「グループ全員に配慮すること」に気付くことが期待できるこのリングダウンは、フラフープが下がらないで葛藤する姿から、様々な気づきが生まれます。

アドバイス・マイアレンジ

「なぜ、フラフープが下がりにくかったのか。」「それぞれがどのような配慮をしたか。」などについて、静粛な雰囲気の中でふりかえりをするのが大切です。このアイスブレイキングを、中心となる活動につなげるためにも、リングダウンの後のふりかえりの時間を十分に確保し、人権学習が学習者（高校生）により内面化していくように配慮しました。



高校生人権学習：「リングダウン」

「高齢者学級」・「家庭教育学級」：下都賀地区

アクティビティ（中心となる活動）

「ダイヤモンドランキング」
（H13『人権学習プログラム集』P26参考）

だからこのアクティビティ

どの年代であっても、学習者が自分の考えや価値観を客観的に見直したり、他者との価値観の違いを知ったりする機会が大切です。参加者同士が話し合いをとおして権利に対する価値観の多様性や共通性に気づき、権利の優位性を明確にするこのアクティビティは、高い学習効果が期待できます。

また、グループの中でコミュニケーションをとりながら合意形成を図る学習過程によって、民主的な雰囲気の中で学習を進めることができます。

アドバイス・マイアレンジ

グループでの話し合いの際に、ともするとグループの多数決のランキングになることがあります。視点を明確にして、お互いの価値観や考えを共有できるような言葉かけが大切です。

身のまわりの事柄を「ほしいもの」「必要なもの」に分類してから順位付けをするアクティビティ、「Need & Want」と融合させると権利の視点がより明らかにできます。



家庭教育学級：
「ダイヤモンドランキング」

「家庭教育学級」・「企業内研修」：下都賀地区

アクティビティ（中心となる活動）

「アサーティブな自己主張を」
（H18『じんけんワークショップガイド』P56参考）

だからこのアクティビティ

家庭で子どもに対してつい言うってしまう口ぐせや、職場でやる気を出させるためにかけた言葉が逆に相手を傷つけてしまった経験は、学習者のほとんどにあります。相手を傷つけずに自分の思いも上手に伝える言い方を考える「アサーティブトレーニング」は、学習者がこれまでの経験を基に、互いによりよいコミュニケーションの方法を話し合うことができるので、「今日からやってみよう」と学習者の実践意欲が高まるアクティビティです。

アドバイス・マイアレンジ

事例に現実味がないと学習者にとって「役に立たない」と思われます。また設定が複雑だったりすると、アサーティブな表現にしにくいいため、敬遠されるおそれがあります。

「2つのささやき（DEVIL or ANGEL）」（『親学習プログラムアレンジ版』H21 栃木県教育委員会P10参考）などを併用してプログラムに入れると、相手の立場に立って表現するコミュニケーションスキルの幅が広がります。



企業内研修：
「アサーティブトレーニング」

「職員研修」：塩谷南那須地区

アクティビティ（中心となる活動）

「忘れられないあの一言・できごと」
(H19『元気が出る人権学習』P15参考)

だからこのアクティビティ

自分が言われたり、されたりしたことだけでなく、教師として児童生徒にとった言動で、後味の悪い思いをしたことも思い出すようにながします。

このアクティビティを体験することによって、何気ない大人の一言が心に残ってしまったり、深い傷となっていたりすることに気付いてもらうことがねらいです。ただし、個人情報を守秘や、無理をせず書ける範囲でよいことなどを事前に確認し合うとよいでしょう。

アドバイス・マイアレンジ

どんな言葉や態度をとれば、子どもの心を傷つけず、素直に受け入れてもらえるかを考える手だてとして、「リフレーミング辞書」（『構成的グループエンカウンター辞典』國分康孝・國分久子 総編集，図書文化発行2004, <http://homepage2.nifty.com/gty/ref.dictionaty.htm> 参考）を紹介しました。



職員研修：
「忘れられないあの一言」

「ジュニアリーダー研修会」：塩谷南那須地区

アクティビティ（中心となる活動）

「私も同じ（Same to you）」
(H21『今すぐ使える人権学習プログラム』P19参考)

だからこのアクティビティ

自分の書いたものが、他の人から認められているという安心感や、互いの考えを認め合うことの心地よさを実感することができます。緊張感を解きほぐし、場の雰囲気や和らげるアイスブレーキングとしても使用しています。

はじめに、何でも受け入れ合える、安心できる場であることを意識してもらえると、より活動に深まりが期待できるでしょう。

アドバイス・マイアレンジ

自己紹介を兼ねて「私のイチオシ」というテーマで実施したため、意外な共通点を見つけて盛り上がる場面も見られました。今回は、一人ずつ順に記入して、その都度他の人がサインをするのではなく、全員が一斉に記入して、その後全員でサインをするという方法を取りました。



リーダー研修：「私も同じ」

「集会所事業」・「高齢者学級」：安足地区

アクティビティ（中心となる活動）

「マークを考えてみましょう」
（H20『えっ！これも人権学習』P32参考）
「人権クイズ」
（H18『じんけんワークショップガイド』P37参考）
「標準案内用図記号」を活用しよう
（H15『じんけん実践ガイド』P48参考）など



高齢者学級：「マークを考えてみましょう」

だからこのアクティビティ

身近なところでいろいろなマークや記号が使われています。自分自身に関わってくるものもあれば、そうでないものもあります。しかし、より多くの人々がこれらのマークや記号を知ることによって、誰にでも優しい社会の実現につながると思います。

また、学習者自身が情報発信していくことも大切です。

アドバイス・マイアレンジ

グループワークだけでなく、マークをかいた画用紙を黒板にはったり、生活の中で実際に表示されているマークの写真を撮ってきて見せたりしながら、全員で考えます。そうすることで、より身近なものとして人権を考えてくれるようになります。絵本『世界のマーク』（太田幸夫監修、主婦の友社発行 2004）も参考になります。

「家庭教育」・「地域懇談会」：安足地区

アクティビティ（中心となる活動）

「人権標語を作ってみましょう」
（H20『えっ！これも人権学習』P34参考）など

だからこのアクティビティ

標語の中にある（ ）に入る言葉を、各自で考えた後にグループで話し合うことで、他者の考えや言葉に込めた思いを共感し合えたり、違いを認め合えたりできます。また、一人一人の言葉や考えを尊重することの大切さ、言葉のもつ力の大きさにも気付くことができます。

アドバイス・マイアレンジ

標語を作る際、記入する言葉に正解はなく、どんな言葉を入れてもよいということ伝えることにより、たくさんのアイデアを生み出すきっかけになります。

また、標語に入る言葉を、各グループで考えた後に、オリジナル標語作りを行います。そうすることで、連帯感や達成感を味わうことができます。自分たちで作成した標語だからこそ、学習者が行動に移してくれることが期待できるのです。

人権標語だけでなく、学習者やテーマによって標語の内容を変えて活用することができます。例えば、家庭教育のときは“我が家のルール”、地域の方対象のときには、“挨拶”などのテーマで標語づくりを行っています。基となる標語は、インターネットで検索をして参考にしています。

「職員研修」：那須地区

アクティビティ（中心となる活動）

「権利の熱気球」
（H18『じんけんワークショップガイド』P59参考）など

だからこのアクティビティ

教師が、人権に配慮した授業を行うためには、教師自身の人権感覚を磨く必要があります。また、教師は児童生徒の人権感覚を磨くために、簡単なアクティビティを授業に取り入れたいと考えています。したがって、お互いの価値観の違いを認め合うアクティビティや、相手への配慮をうながすアクティビティをよく使います。「権利の熱気球」は、ランキングが各々違ってくるので、明確に価値観の違いを知ることができ、新鮮な驚きがあるようです。

アドバイス・マイアレンジ

「権利の熱気球」に乗せる権利は、講座を受ける方々や取り扱う人権課題によって変更できます。



「権利の熱気球」の様子

